

やまなしの福祉11

No.350
2019
月号

特集

P2

ゲーム感覚で福祉を学ぶ

～Mystic Minds～

アビリティーズ



写真：福祉系謎解きイベント～Mystic Minds～アビリティーズのスタッフ、ボランティアの皆さん

P6 出張します!「認知症家族介護講座」

P7 新しい介護講座・研修の様子は?

P8 福祉の就職フェア・福祉用具紹介

P9 市町村会長・事務局長会議を開催

P10 日常生活自立支援制度の紹介

P11 【連載】社協ボランティアセンター
情報コーナー(南部町社協)

P12 【案内】第67回山梨県社会福祉大会
東日本大震災による避難者支援 他

福祉系謎解きイベント ～Mystic Minds～

アビリティーズ ゲーム感覚で福祉を学ぶ

ゲーム感覚で福祉について学ぶ「福祉系謎解きイベント～Mystic Minds～アビリティーズ」(山梨県社会福祉協議会主催)が7月28日、昭和町のイオンモール甲府昭和で開かれました。

この事業は、福祉や介護について幅広い年代に親しみながら興味を持ってもらうことを目的に、若者の間で話題となっている「謎解きゲーム」の要素を取り入れた体験型イベントとして実施しました。

買い物に訪れた親子などが参加して、モール内に設定されたスポットを巡りながら体の不自由な状態を体験したり、福祉・介護の仕事に触れたりしました。

「親子連れ」が楽しめる仕組み

設定

「消えたヒーローを探せ」をテーマに、「アビリティーズという元ヒーロー達を探しに行く」という、親子連れで参加しやすいストーリーを展開。子どもと大人で協力して謎が解けるように、子どもが得意な遊びと大人が得意な推理を組み合わせることによって謎が解けるという仕組みを採用しました。

ルール

ショッピングモール内にある5カ所の謎解きスポットで出されたテーマに沿って体験から得られるヒントを元に謎解きを行い、姿を消したヒーロー「アビリティーズ」を捜します。すべての謎をクリアしてもらう5枚のカードをヒントに「ラストワード」を見つけることができればクリアです。

ヒーローたちは「足が不自由」「手にまひがある」などのそれぞれ事情があります。参加者は車いすに乗ったり、指が動かしづらい人向けのスプーンやフォークで皿の中のビーズを移したりして、当事者の状態を体感しながら謎を解きます。



訳ありヒーローを探すのがテーマの「アビリティーズ」



受付

耳が聞こえにくいヒーロー

耳が聞こえづらい人の当事者体験をしました。口の動きだけで相手に言葉を伝えるなどの「言葉を使わない(非言語)コミュニケーション」で謎解きに挑戦しました。参加者は、補聴器などの道具に頼るだけでなく、耳の不自由な人に寄り添う大切さを体験しました。



耳が聞こえにくいヒーローへのコミュニケーションを考える参加者



参加者感想

小学校5年の女兒と母親

「補聴器を子どもが知らなくて驚きました。当然知っていると思っていたのですが、耳の不自由な人を知る良い機会になりました。福祉機器について学ぶ機会にもなりました」

手に麻痺があるヒーロー

手がうまく動かすことのできない状態でビーズをすくう体験をしました。福祉用具(ユニバーサルスプーン)を使い、自分の手でものを食べる大切さを知りました。



指が動かしづらい状態でビーズ移しを体験する参加者



参加者感想

小学校6年の男児と母親

「手の動きが制限されていると、こんなにもうまくできないんだ、と思いました。手が不自由な人の大変さが分かりました」

目が悪くなったヒーローに頼まれて失くした物を探しました。どんな道具を使えばうまく探すことはできるのか、を考えます。ルーペを使うことに気づき、やっと文字が読めました。



失くしものを探す謎解きに挑戦する参加者

参加者感想

小1、小3の兄弟

「字が小さくて探すのが大変でした。こんなに小さな字じゃ、ルーペを使ってもうまく読めません。お年寄りには絶対無理。もっと大きい字でかなくちゃ、優しくないです」

実際に車いすに乗ってコースを回り、車いすの目線の高さや段差があるときの大変さなど、足の不自由な人の体験をしました。車いすの目線でないと気づかない所からヒントを得て、謎解きの答えを導きます。



車いす体験をする参加者

参加者感想

小5の男児と父親

「車いすは段差があるとうまく進めないことが分かりました。目の高さも低くて、いつもとは見えるものが違いました。車いすの人は本当に大変だと思いました」

「大切なものを失くしたが、何を失くしたか思い出せない」というヒーローが、その大切なものを思い出すための手伝いをしました。



ヒントが書かれた紙を参考に忘れた大切なものが何か、を考える参加者

参加者感想

小3の男児と父親

「メモを見てもなかなか分かりませんでした。スタッフのヒントで何とか分かりました。でもヒントで思い出せればいいけど、本当に忘れちゃうと難しいのでは。認知症の人には、周囲の助けが必要ですね」

ラストミッション・ゴール

5カ所でもらったカードを並べ替えたりしながら「ラストワード」を見つけました。その言葉を見つけ、ゴールへ向かいました。ゴールでは、タブレットでエンディング動画を鑑賞し、捜し出したアビリティーズの活躍で世界に再び平和が来たことを知りました。ご褒美に秘密基地に案内されました。

秘密基地(中央広場)

ここで秘密体験(福祉に関する機器類を体験)をしました。音を振動や光で表現して耳が聞こえない人も音を楽しむ装置や移乗リフトを使ってベッドから車いすに移る体験など、福祉の体験をしました。



秘密基地体験①
「Antenna」で耳が聞こえない人向けの機械を体験



秘密基地体験②
移乗リフトを体験



秘密基地体験③
手の震えを吸収してくれるスプーンを体験



秘密基地体験④
認知症の症状である見当識障害の不安感が体験できるVRを装着

まとめ

ショッピングモールで開催したこともあり、家族連れを中心に多くの皆さんに参加いただきました。参加者のアンケートからは、「楽しみながら福祉について学ぶことができました」「いろんな福祉機器があるのを知って勉強になりました」「障害を持つ人や高齢の方など、困っている人に助けがあれば少しでも楽になれることを知り、困っている人がいればすぐに助けたいと思いました」など、たくさんの感想をいただきました。

福祉や介護の世界で働く人材が不足している中で、今後も、多くの方々に福祉や介護の仕事についての魅力を発信していきたいと思っております。

お近くの会場で認知症介護について学びませんか？

出前出張講座「認知症家族介護者講座」

県立介護実習普及センターでは、県民の皆さんに介護についての知識や技術を習得していただくため、介護に関するさまざまな講座を開催しています。しかし、受講を希望していても、甲府市にある当センターまで来ることが出来ない方もいます。こうした県民の皆さんの要望にお応えするため、希望する会場まで出向いて講座を開く「出前出張講座」を実施しています。



講師の甘利俊明さん

(一般社団法人山梨県介護福祉士会会長)

専門家による指導 意見交換も活発

8月21日には、北杜市白州総合支所において、出前出張講座「認知症家族介護者講座」が開かれました。北杜市白州地区民生委員児童委員協議会の皆さん12人が参加しました。講師の社会福祉法人日新会の甘利俊明さん(一般社団法人山梨県介護福祉士会会長)は「困りごとを早期に発見することが必要です。発見が早いほど良い。アンテナを常に立てて、早期発見に努めてください」など、地域において民生児童委員に期待される役割について話しました。また、テキストを使って認知症の症状、認知症の人との接し方、予防方法など認知症ケアについて説明しました。

質疑応答では、「家族の負担軽減のためにショートステイの利用を勧めても『家にいるのがいい』と言って行こうとしません。どうしたらいいのか」など、具体的な問題提起もあり、講師の甘利さんのアドバイスをはじめ、他の民生児童委員からも提案や悩みなどが出て活発に意見が交わされました。

認知症、介護を学ぶ良いきっかけ

白州地区民生委員児童委員協議会の高木高雄会長は「民生児童委員として認知症の家族にどう接したらいいのか、専門家の話を聴くことができ勉強になりました。また、委員同士でも認知症や介護の問題について意見を交わす良いきっかけになりました。今後の活動に活かしていきたい」と話していました。



認知症に関する出前出張講座

対象者 5名以上の団体・グループであれば、どなたでも受講できます

会場 お近くの会場まで出前出張します

費用 無料

講座名	開催予定日	講座所用時間
認知症疑似体験	ご相談ください	1時間～1時間30分
認知症家族介護者講座	(要日程調整)	1時間～1時間30分



出前出張講座「認知症家族介護者講座」
(北杜市白州総合支所)

【問い合わせ先】 県立介護実習普及センター ☎055-254-8680

今年度から新たに加わり、
開催した講座・研修の様子を
お伝えします!

介護職員対象研修

「ターミナルケア・グリーフケア」

2019年7月23日開催



ターミナルとは「病状の好転や進行の阻止が期待できなくなり、近い将来の死が不可逆となった状態」です。

介護現場ではこのような状態の利用者に対して、まだ残っている能力やその人の好み、価値観を尊重し、人生でやり残したことを達成できるように支援するなど、その人の思いに沿って、できるだけ心地よく生きられるように支える関わり(ターミナルケア)が必要とされます。

ターミナルケアで見られる身体的・心理的特徴、ご本人の意思を尊重することの大切さ、人の「死」に直面する側(家族、職員)にとって必要不可欠な「グリーフ(悲しみ)ケア」についても学びました。



小学生(4~6年生)対象講座

「認知症キッズサポーター養成講座」

2019年8月9日開催

認知症になっても安心して暮らせる社会をつくるために、大人はもちろん“キッズ”も大切な一員です。

講座前半では認知症についての基礎知識、対応方法の基本について学び、後半ではグループを組んで全9問のクイズ「こんな時はどうする? 認知症の方への対応方法」に挑戦!

クイズでは“財布を盗まれたと言っているおばあちゃんがいたら…”“何度も同じことを言うてくる認知症の人と接するとき、気を付けることは?”などに挑戦し、“認知症と共に歩む方に私たちができること”について一緒に考えました。



LINE@

友だち募集中。

友達登録で人材センター情報をGET!!

山梨県福祉人材センター



関自共の
自動車共済

団体割引 10% 福祉施設割引 10%

*団体割引は共済契約者、被共済者が当組合の規定を満たす場合のみで、台数規模と損害率により決定し、毎年見直されます。

関東自動車共済協同組合 山梨県支部 甲府市飯田4-4-2 TEL 055-237-8331 FAX 055-237-8332





福祉の就職総合フェア@やまなし を開催しました!

令和元年8月9日(金)、アピオ甲府にて、福祉・介護・保育専門の就職相談会「福祉の就職総合フェアinやまなし」を開催いたしました。当日は、高齢者、障害者施設をはじめ、保育、児童関連の施設など65法人がブースを設け、県内の介護福祉士養成校の学生を中心に、福祉の仕事に就職を希望する参加者に対し、各法人・事業所の業務内容や労働条件などの求人内容、採用したい人物像などの説明を行いました。

また、相談前における開会式では、実際に施設で働いている先輩から「福祉・介護職の魅力について」をテーマに、医療法人燦生会の介護福祉士 小宮山幸太さんによりご講演をいただきました。



講演会では、入職7年目でサブリーダーとして勤務している今、自分が感じている介護の仕事の魅力とは、「利用者様の夢を叶えてあげられるようにサポートできる仕事」、「たくさんの人との出会いと毎日の変化に喜びが感じられる仕事」、さらに、「利用者様との関わりの中で私自身を認めてくれること」であり、介護職とは、人との信頼関係なくしてはできない仕事であることを参加者に語ってくれました。

Goods

福祉用具紹介
あると便利なグッズたち

コミュニケーションロボット

なでなでねこちゃんDX2 なでなでワンちゃん

■ 価格 5,980円 / 6,980円(いずれも税別)



なでなでねこちゃんDX2

なでなでワンちゃん

アニマルセラピー効果を備えた、ねこ/いぬの形をしたコミュニケーションロボットです。認知症が軽度から中等度の方への癒しやコミュニケーションの促進効果が期待できます。いずれも本物のねこ、いぬの声を 사용하여実際に一緒に暮らしているように感じます。ペットを飼いたいけれど飼えないという方にもおすすめです。

スマートフォンのパネルなどに利用されている静電センサーを使用しており、撫でたり触ったりを感知して鳴きます。頭、背中、のどなど部位別に鳴き声が変わります。また、いぬの方は、撫でるときだけでなく、音や声にも反応して「ワン!」と鳴きます。

Check Point

ねこといぬのそれぞれ3種類があり、展示室には、ねこは「アメショーちゃん」、いぬは「しば」を展示しております。ぜひ、展示室で触れてみてください。

市町村社会福祉協議会 会長・事務局長会議を開催しました



山梨県社会福祉協議会(以下、県社協)は、8月27日(火)、山梨県社会福祉事業団研修室にて「令和元年度 市町村社会福祉協議会会長・事務局長会議」を開催しました(参加者45名)。

この会議は、社会福祉協議会を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、市町村社会福祉協議会間の情報交換と相互連携の強化を目的としています。

開会にあたり、県社協 芦澤敏久会長より主催者挨拶を行い、続いて、会場の山梨県社会福祉事業団宮澤理事長より歓迎の挨拶をいただきました。

山梨県社会福祉協議会より重点事項等の説明・質疑応答

まず、県社協の各課所長より、事業の重点事項について説明を行い、各市町村社協から回収した事前アンケートで寄せられた県社協への要望・意見について回答を行いました。

事例発表 社会福祉協議会と社会福祉法人との連携について

山梨県社会福祉法人経営者協議会副会長の青木茂氏による事例発表では、峡南地域の社会福祉協議会と社会福祉法人が連携して実施している「峡南地域社会福祉法人連絡会」についての紹介が行われました。連絡会では、地域の課題を共有し、災害が発生した際の連携や、福祉の人材不足等の協議が行われています。青木氏は、峡南地域だけでなく、他の地域でも社会福祉法人同士が連携して地域福祉の取り組みを行っていくよう、各市町村社会福祉協議会へ参加・協力を呼びかけました。



事例発表を行う
県経営協青木副会長

講演 社会福祉の重点課題と社会福祉協議会の取り組み

全国社会福祉協議会常務理事 笹尾勝氏による講演では、これからの県・市町村社協に必要な取り組みとして①社会保障・社会福祉制度改革の動向、②地域共生社会の実現に向けた基盤強化、③これからの社会福祉協議会の役割と課題の3つのポイントが話されました。社会福祉事業に多様な実施主体が参入する中で、地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人としての本来の役割、存在意義を改めて考え、地域住民や他の法人と連携しながら取り組みを行っていくことの重要性が話されました。



講演を行う
全社協笹尾常務理事

ソウェルクラブ(福利厚生センター) 山梨県事務局からのお知らせ

ソウェルクラブ山梨県事務局では、今年度もソウェルクラブ会員の皆様にお楽しみいただける会員交流事業を企画しました。会員同士の交流やご家族でのお出かけ等に、ぜひご利用ください。

★2019年度 山梨県会員交流事業(予定)★

実施日	事業内容
9月23日(祝)	東京ディズニーシー パーク・ファン・パーティー(実施済み)
11月3日(祝)	横浜軍港クルーズと三崎まぐろ堪能ツアー
12月14日(土)	都内ランチビュッフェと築地場外市場・かつば橋道具街散策
1月4日・25日(土)	ハイランドリゾートホテルのランチビュッフェと温泉入浴



※参加は、ソウェルクラブの会員およびその家族に限ります。
※参加者募集については、ソウェルクラブ加入法人・事業所へ別途お知らせいたします。
※ソウェルクラブの詳細は、<https://www.sowel.or.jp/>をご覧ください。

【お問い合わせ先】ソウェルクラブ山梨県事務局 山梨県社会福祉協議会 総務企画課 Tel:055-254-8610 Fax:055-254-8614

地域で安心して生活するために ～日常生活自立支援事業～

本事業は、高齢者や障害のある方々が、住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるように福祉サービスの利用などに関わる相談やお手伝い(援助)をし、その生活を支援する事業です。

■対象となる方

認知症の高齢者、知的障害者、精神障害者等で判断能力が十分でないため、日常生活での福祉サービスの利用や金銭管理等がうまくできない方々が対象になります。

※判断能力を欠いているため契約ができない方は、成年後見制度の利用対象となります。

■援助内容について

①福祉サービスの利用援助

- ・福祉サービスの利用に関する情報の提供、相談
- ・福祉サービスの利用における手続きの援助、申し込み同行
- ・日常生活に必要な事務手続き援助
(住民票の届出等行政手続き、貸借・消費契約)
- ・定期的な訪問、相談

②日常的金銭管理サービス

- ・預金の出し入れ、また預金の解約の手続き
- ・福祉サービス利用料金の支払い、病院への医療費の支払い
- ・日用品の代金の支払い、公共料金等の支払い

③書類等の預かりサービス

- ・保管を希望される通帳や印鑑、証書などの書類をお預かりします



■利用料等について

福祉サービス利用援助・ 日常的金銭管理サービス	1時間以内 1,000円 1時間を超えた場合 15分ごとに250円を加算
援助に対する交通費	1km当たり 20円 ※1km未満は切り捨て
書類等預かりサービス (保管料)	月額 300円 ※金融機関の貸金庫を利用して保管 する場合は、実費相当分を追加する。

※生活保護世帯は無料です。

■事業を利用するには

お住まいの地域の社会福祉協議会にご相談ください(相談は無料)。



相談



面談・調査



支援計画作成・契約

専門員が利用を希望する本人と面談・調査等を行い、本人の希望と状況に応じた支援計画を作成します。援助を行うことが合意されれば、利用契約を結びます。契約は原則的に本人と社会福祉協議会が行います。

利用者本人の契約能力の確認が難しい場合は、山梨県社会福祉協議会が設置している「契約締結審査会」で審査します。

南部町社会福祉協議会で活動している2つのボランティア活動についてご紹介します。

南部町社会福祉協議会

社協 ボランティアセンター 情報コーナー

Information about a volunteer

Vol.

19

■ ひまわりボランティア

手作り大好きな仲間がアルファセンターを拠点に集い、平成4年にテレビ枕をプレゼントしたことから始まった活動は、平成6年には小中学校の子供たちも参加し(夏休み期間)手作りボランティア「ひまわりボランティア」が結成されました。

町内の方より頂いた布などを再利用し、巾着袋・手巾などを作り南部町福祉健康まつりでプレゼントしてきました。平成15年の町の合併後は、福祉健康まつりで配布する個数も増えメンバーは作業に追われました。平成23年、東日本大震災被災地に少しでも役に立つものを作りと手作り品を送らせて頂きました。町内の施設にも喜ばれる物を作り、届けさせて頂いております。開設以来、メンバーの顔ぶれが大分変わりましたが、27年間休まず活動しているボランティアさんもいらっしゃいます。時代は令和になりましたが、ボランティアのみなさんの熱意は発足当時のまま引き継がれ、今も元気に活動しております。



ひまわりボランティア



味彩の会

■ 味彩の会(調理・配食ボランティア)

平成8年、高齢化が進む中で、住民同士で支え合っていきたいという思いでスタートした配食サービス。少しでも味に彩りを添えたいという気持ちを込めて『味彩の会』と命名しました。

在宅で頑張っている一人暮らしの高齢者に、規則正しい栄養のバランスのとれた、おいしい食事を提供することにより、健康な生活が送れ、日常生活の意欲が高められたらという思いで活動しております。

配達時には利用者に声掛けを心掛け、安否確認をも目的としています。

開始当初は配食ボランティア8名、調理ボランティア21名でしたが現在では、配食ボランティア65名、調理ボランティア60名の大きなボランティア団体となって活動しております。

南部町
社会福祉協議会

業務時間:月～金曜日 8:30～17:15

住所:南部町内船8812(南部町アルファセンター内)

TEL:0556-64-2075

FAX:0556-64-8200

<https://www.town.nanbu.yamanashi.jp/kakuka/syakukaihukushi/index.html>



善意をありがとう

タオル、石けん、ティッシュ、使用済み切手等の寄贈

一般社団法人山梨県法人会連合会様、公益社団法人甲府法人会様(いずれも高野孫左工門会長)より、会員法人の皆様からお寄せいただいたタオル、石けん、ティッシュ、使用済み切手等の寄贈をいただきました。



お預かりした寄贈品は、福祉施設で活用いただきます。たくさんの善意をありがとうございました。

第67回山梨県社会福祉大会を開催いたします

【日時】令和元年11月27日(水) 13時30分～15時30分
【場所】YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)
【内容】第一部(13時30分～14時30分) 表彰 第二部(14時30分～15時30分) 記念講演
※詳細は、山梨県社会福祉協議会のホームページに掲載いたします。
【その他】入場無料。どなたでも参加いただけます。
【問合せ】山梨県社会福祉協議会 総務企画課 TEL 055-254-8610 FAX 055-254-8614

読者アンケートのお願い

今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、ぜひご協力ください。
問1 「やまなしの福祉」の内容はいかがでしたか？

- 読みやすさ ①とても満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満
●色・文字の大きさ ①とても満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満
●記事の内容 ①とても満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満
●全体満足度 ①とても満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満

問2 興味を持った記事を3つ教えてください。
問3 広報紙「やまなしの福祉」で取り上げてほしい内容や広報紙に関するご意見、ご感想をお聞かせください。

FAX・はがき・メールでご回答ください

【宛先】〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ4階 山梨県社会福祉協議会 総務企画課 FAX 055-254-8614

ホームページ http://www.y-fukushi.or.jp/

※右記QRコードからも回答できます



東日本大震災による被災地からの避難者支援

「東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会(中央市)」では、東日本大震災により県内に避難されている方々を支援するため、帰還や生活再建に必要な各種支援情報の提供や相談・交流会等を開催しています。被災地から避難されている方で、今の生活での困りごとや将来のことなどに悩みや不安がある方は遠慮なくご相談ください。

【生活再建支援拠点】

《東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会》
〒409-3803 山梨県中央市若宮49-7
【電話】090-3088-4749
【メールアドレス】musubukai@ycca.jp
【相談日/時間】月～金(祝日を除く) 9:00～17:00

～主な相談内容～

- ・公営住宅など住宅に関する相談
・生活困窮や子どもの不登校や引きこもりに関する相談
・本人や家族の体調不良、健康問題に関する相談
・就労に関する相談
・障がいや介護、医療など福祉サービスに関する相談など

広報紙「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報紙「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

ホームページ http://www.y-fukushi.or.jp

11月号は以下の通りです。

11月号のID yfukushi350

Android用



iOS用



※パスワードは必要ありません

貸し出し図書紹介

事例で学ぶ 認知症の人の家族支援

認知行動療法を用いた支援プログラムの展開

編者 福島 喜代子
著者 結城 千晶
発行所 中央法規出版株式会社
〒110-0016 東京都台東区台東3-29-1
ホームページ https://www.chuohoki.co.jp/



本書は4章構成となっており認知症の人の家族介護者がたどる心理的ステップの解説から、認知行動療法を用いた家族支援の実際、家族支援プログラムの展開、海外の家族支援プログラムの研究動向をまとめた、家族介護者を支援する方々に知っておいてほしい知識が入った一冊となっています。

豊富な事例による解説とすぐに使える支援プログラムを収載していますので、今日からでも役に立つ内容です。

このほかにも介護・看護・福祉についての本(約300冊)やビデオ・DVD(約200本)を貸し出しています。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。☎055-254-8680